

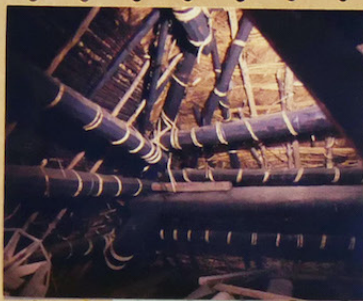
村

草分けの家

早坂林右衛門家と通称の板、仙谷藩御所の建物であったと伝えられてきた古民家のたたずまい。



早坂林右衛門家倉



屋根裏の木組み



ヒロマの地床炉



カラミ(袴手)



テクツ(手錠)



早坂林右衛門家冬

未開の沼地・原野・山林を、はじめて切り開いて新しい村を創った最初の開拓者とその家系を、村の草分け・草刈り・草刈りなどことばが、井沢の草分けは、旧家系とされる井沢集落の「早坂四家」である。家系図に載るものは伝えているが、千早の藩人であるという口伝を持つ仙谷の時代には出羽へ通じる場所「御所」が井沢に置かれたが、やがて廃され、真田・小堀・手塚などの道具を地元の百姓に預け、そのものが井沢に目をうつっていたという。早坂四家のうち、林右衛門家と宗右衛門家には、移転時までにクツ(手錠)やカラミ(袴手)などの道具が伝えられていた。早坂家の伝承によれば、かつて井沢集落は井沢川対岸のダンノシタにあり、御所所その地であった。やがて井沢によって井沢川南岸に村をあげて移転し、その御所所敷の跡地を、伊達藩の流儀で建てられたという。移転時までに、青村八寸典、手塚の御所所敷の跡地が見られた。御所所敷跡地、林右衛門家には、伊達藩の流儀で建てられたと考えられる。また、早坂家の役所が置かれたと考えられる。また、早坂に隣接したヒロマは、仙谷神社の祭礼で、ご神体を山中からお迎えするためのおオマス(馬車)を、こり身を清めて細工するための小屋だったという。